

倭舞から歌舞伎舞踊へ まほろばの里® 芸能祭開催

Topic

- ☐ 平成 27 年度施政方針
- ☐ 平成 27 年度一般会計予算
- ☐ 町民講座・出前講座
- ☐ 広報たかはた文芸欄年間賞発表

人口と世帯数

3月1日現在

人口	24,556 人
男	11,926 人
女	12,630 人
世帯数	7,530 世帯

平成27年度

施政方針

基本的な考え方

はじめに

昭

和30年4月、当時の社郷町と糠野目村が合併し現在の高畠町が誕生しました。平成27年度は、その町村合併から60年という節目の年にあたります。

その60年前、新しい町の誕生を記念して発行された「町報たかはた」の記念すべき第1号には、高畠町初代町長の新野廣吉氏が、「発展を期待される新生高畠町」と題して次のような言葉を寄せております。

『生産と消費の調整を基調に、農工、商業の流通的経営により自主経済の確立に意を注ぎ、税源の培養、産業の振興、失業対策としての公共事業の実施、並びに資金の導入、教育文化など各般にわたり積極的施策を決定し、合併体としての町政運営を円滑に推進致したいと思います。』

当時、町政運営の最高責任者として新野氏が示されたまちづくりの思いは、時代の変化に左右されないまちづくりの普遍的な考えとして、今なお連綿と受け継がれていると言っても過言ではありません。

しかしその一方で、人口減少社会の到来、少子高齢社会の進展など将来の危機的状況を眼前にして、これまでの発想を転換し、大胆かつ柔軟に様々な施策を展開していくことも必要であります。

折しも政府は「地方創生」を旗印に、また「田園回帰」という新しい流れを追い風に地方への人的支援・財政支援・情報支援を積極的に推進するとしており、私は、積極的にこの流れを受け止め、人口減少対策・子育て支援策の拡充を行い、地域産業のさらなる発展を通して地域の活力を取り戻し、人々のつながりを創り出す取り組みをこれまで以上に進め、平成27年度を、希望に満ちた明るい未来に向かうための「新たな創造」の年といたします。



町政の運営方針

高

高田町が今後とも魅力的な町であり続けるために、私は、山積する諸課題を先延ばしすることなく、その課題解決に真摯に取り組む、「たかはた」というブランド力を活かした施策を展開し、「人が輝き誇れるまち」の創造をさらに進めてまいります。

このため、平成27年度は、次に掲げる3点を町政運営にあたるための重要な視点として掲げ、当町の『特性・魅力・活力』を十分に活かした町政運営を行ってまいります。

【1】地域の特性を活かした

力強い産業の振興

当

町には、ぶどう、ラ・フランスをはじめとする豊富な果樹や高畠産つや姫に代表される品質の高い米の産出、食品加工業の集積、そして有機農業の先駆的な取り組みなど、多くの優れた「特性」を持っています。これらの強みをさらに磨き上げ、差別化を図る中で、高畠町の特性をフルに活かした産業の振興施策を積極的に展開してまいります。

また、グローバル社会の中で、地方においても情報技術等を活用しながら、新たな産業を創り出し、雇用を生み出すチャンスとして、今般の「地方創生」の政策である「まち・ひと・しごと創生法」に基づき地方版総合戦略の策定を進め、新たな産業創出につながるような具体的な施策を実施してまいります。

【2】地域の魅力を活かした

人口減少対策・子育て支援

昨

年5月の日本創成会議の提言をきっかけに、国も地方も人口減少問題への対応を強化しなければならぬという気運がこれまで以上に高まっています。

当町はいわゆる「消滅可能性自治体リスト」に名を連ねることは免れましたが、行政内部の連携をこれまで以上に密にし、関係機関との連携を強化しながら、危機感を持って、実効性のある人口減少対策に取り組んでいかなければなりません。

「地方創生」の流れを積極的に利用し、当町の子育て・教育に関する良好な環境とその魅力を内外に広く発信し、関係機関と連携しながら子育て世代をはじめ多くの世代から「選ばれる町」を目指して積極的な施策を展開してまいります。

【3】地域の活力を活かしたコミュニティの再生と新しいつながりの創生・

災害に強いまちづくり

国

では、昨年暮れに「まち・ひと・しごと創生」の全体像を明らかにし、「長期ビジョン」と「総合戦略」

の中で、東京一極集中を是正し地方への新しい人の流れをつくり、地方で安定して働くことが出来るよう雇用の創出を目指すとしております。

私は、このような田園回帰や地方創生の流れを積極的に受け止め、人口減少社会に対応した地域づくりを進めたいと考えております。

具体的には、新規事業としての地域おこし協力隊や集落支援員の採用等、地域に新たな風を吹き込むための地域振興事業や、旧時沢小学校の利活用プ

主要施策

平

成27年度は、第5次高畠町総合計画の後期基本計画2年目にあたり、総合計画の実現に向かう大切な時期です。総合計画では「誇り・創造・自立・共生」という4つの基本理念をキーワードに、「人が輝き誇れるまち」のさらなる創造と発展を目指しており、平成27年度における町政の主要施策についても次の4点をまちづくりの指針とし、具体的な施策を展開してまいります。

【1】たかはたらしい創造性あふれる

まちづくり

地方分権の推進と「地方創生」の流れを受け、地方の自立と独自の

地

施策が求められる中、「地方創生」では、地方自治体の独自性や熱意と創意工夫を示す自治体に対し、より積極的に支

プロジェクトの推進等、地域に新たなつながりを創り出すための事業に取り組んでまいります。

さらには、SNS（ソーシャルネットワークキングサービス）などを活用し、町の情報をリアルタイムで発信することにより、社会とのコミュニケーションを図り、また共感を得られることで町とのつながりを創出してまいります。

また、近年の集中豪雨による水害や大雪による雪害などを踏まえ、消防団組織の強化や消防資機材の整備はもとより、町内集落での自主防災組織の組織化を一層推進し、災害に強いまちづくりを進めてまいります。

援を行うとされており、これまで以上に「たかはたらしさ」を追究した特色ある施策を展開する必要があります。

①地域産業の活性化からのアプローチ
新たな事業展開や設備投資、技術開発等に対する支援により雇用の創出と

企業のさらなる発展を促進するため、新ビジネスモデルチャレンジ事業、製造業経営革新事業等の支援策を継続してまいります。

また、町内企業で構成する団体が連携し、他地域との積極的な技術交流を支援することにより受発注の拡大の実現に結びつけてまいります。

加えて、地域経済の要である商店街の振興策として、特色のある商店街づくりを積極的に支援するとともに、新たな商店街の振興策の検討と商店街にスポットを当てた観光施策との連携により活性化を図ってまいります。

たかはたブランドの推進については、さらなるブランド力の向上を目指して、町内事業者との連携を図りながら、ブランドギフト商品の開発や販売等を展開してまいります。

②将来に継承できる

農業・農村再生からのアプローチ
農業分野については、将来を見越した農業経営の確立を図るために、次の2つの視点に立つて農業振興を図ってまいります。

一つ目は、歴史のある有機農業への取り組みを土台として、自然環境に配慮した農業の推進と安全安心な農産物の生産を進めるとともに、米やぶどう、そしてラ・フランス等のブランド力をさらに磨き上げ、高付加価値化を図ってまいります。

また、町内の食品加工業者とのさら

なる連携により、新たな商品開発や販路の開拓等、これまで以上に6次産業化を推進してまいります。

二つ目は、国が進める新たな農業・農村政策に則り、担い手への農地の集積と集約化を進め、経営規模の拡大を推進してまいります。このため、新たな圃場等の基盤整備に取り組むとともに、すでに整備された圃場に対しては、市場が求める収益性が高くこの地域にあった米に代わる作物栽培の導入を検討してまいります。

③新たな産業創出からのアプローチ

現在、旧時沢小学校を舞台に、ICT(情報通信技術)ベンチャー系企業や環境関連企業などが「サテライトオフィス」として入居し、グローバルな事業を展開しながら、周辺の里山の活用も念頭に置いた新たなプロジェクトが進められております。

現段階で事業に参画予定の企業は、首都圏あるいは国際的に事業を展開している企業が中心であり、実現すれば人的交流から定住化へつながるきっかけにもなり、また、新たに創出される事業が雇用を生み出す可能性も十分に考えられることから、町としてもプロジェクトの実現に向けて積極的に支援してまいります。

④町制施行120周年・

町村合併60周年からのアプローチ

平成27年度は町制施行120周年・

町村合併60周年という記念すべき節目の年となります。これを記念して、町民とともに様々な事業を企画し、多くの町民の方々に参画していただきながら、町を挙げてお祝いしていきたいと考えております。それぞれの記念事業が、高島町の将来に明るく希望が持てるものにつながるよう取り組んでまいります。

【2】誇り高い人間性を育む

まちづくり

誇り高く、心豊かに日々の暮らしを送るためには、子どもから高齢者まで、障がいの有無にかかわらず、人生の各期において、健康で自分らしく豊かな心でいきいきと過ごせることが何よりも大切です。そのために、子育て支援や教育環境の整備、生涯学習の充実を図るとともに、障がい者や高齢者の福祉を充実させ、切れ目のない、かつ、細やかな支援を行ってまいります。

①切れ目のない充実した

子育て支援からのアプローチ

平成27年度は、「高島町子ども・子育て支援事業計画」に基づき、高島町子どもセンターを中心とした相談、指導、支援業務などの子育て支援の充実や民間保育所、学童保育所への運営支援、子育て世代への各種支援策を推進してまいります。

特に、新規事業としては、平成27年

度から、第3子以降のお子さんの保育料等について、これまでの半額助成から全額を助成することといたします。また、学童保育所に入所する準要保護家庭の児童について、その利用料を補助するとともに、0歳から中学3年生までの医療費無料化事業も継続して実施する等、保護者のさらなる負担軽減を図ってまいります。

母親と子どもの健康づくりを推進するため、町単独事業として「1歳お誕生ママ健診事業」、「インフルエンザ予防接種事業」を引き続き実施してまいります。

また、少子化対策として、「特定不妊治療助成事業」を拡大し、男性不妊治療費も対象とするとともに、妊婦健康診査事業を継続してまいります。

さらに、次代を担う子どもの健やかな育ちを支援するため、読み聞かせを推進する「ブックスタート」事業を新たに展開します。また、成長発達段階に応じた各種事業を実施するとともに、育児不安を解消するため訪問指導及び健診・相談事業の充実を図ってまいります。

また、子育て世代の若者世帯に対する定住促進事業については、町外からの転入世帯だけでなく、賃貸住宅等に居住している世帯や原発事故避難者世帯への持家住宅建設購入補助を引き続き実施し、町内への子育て世代の定住を促進してまいります。

さらに、社会教育における家庭教育

分野では、幼児期や小・中学校入学時の親を中心に、年代に合わせた各種支援講座の開催や家庭教育の推進を図るとともに、地域住民と連携しながら「放課後子ども教室」や「学校支援地域本部事業」を引き続き実施し、子どもたちの安全で健やかな居場所づくり、地域と学校が連携した学びの場づくりなど、地域全体で子育て支援に取り組んでまいります。

②「自助」「互助」「共助」「公助」からの

アプローチ

地域福祉施策については、第3次高畠町地域福祉計画・地域福祉活動計画に基づき、「自助」「互助」「共助」「公助」を組み合わせて地域の課題を解決できるような仕組みづくりや基盤整備を行い、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる福祉のまちづくりを推進します。

高齢者福祉施策については、第6期高畠町老人福祉計画・介護保険事業計画に基づき、団塊の世代が75歳となる平成37年に向けて、予防、医療、介護、住まい、生活支援など、地域の支え合いとなる「地域包括ケアシステム」構築の実現を目指してまいります。

また、医療・介護の連携や認知症施策等の新しい地域支援事業に積極的に取り組むとともに、地域ぐるみで高齢者の生活を支援する体制を整備し、平成29年4月から実施する「介護予防・日常生活支援総合事業」への移行準備

を推進してまいります。

障がい者福祉施策については、第2期高畠町障がい者プラン後期計画に基づき、障がいの有無にかかわらず、誰もがお互いに人格と個性を尊重し共に支え合う「共生社会」の実現に向け取り組んでまいります。また、障がい者が自らの意思で選択し、決定し、地域でいきいきと生活出来るような基盤整備を進めてまいります。

③確かな学びを育む

教育環境整備からのアプローチ

平成28年4月に開校する高畠中学校については、平成27年度に外構工事とグラウンド整備等を行います。新生・高畠中学校で生徒たちが安全に安心して学習が出来るよう、ハード・ソフト両面において開校に向けて全力で取り組んでまいります。

また、高畠中学校開校後、現第二中学校の校舎等を大規模改修しながら屋代小学校として転用するための実施設計に着手してまいります。

教育環境の向上については、児童生徒の学習に取り組む意欲の高揚と基礎的・基本的な知識、技能の習得と思考力・判断力・表現力等を伸ばすために、引き続き「次代を担う児童生徒育成事業」を展開してまいります。

特別支援教育支援員や教育相談員の配置、臨床心理士の活用を積極的に進めながら、不登校や特別に支援が必要な児童生徒にきめ細やかな支援教育を

引き続き行つてまいります。

④豊かな心と体を育む

生涯学習・文化振興からのアプローチ

社会教育環境においては、各地区公民館や上和田交流館などを「地域の方々の憩いと活動の拠点」として位置づけるとともに、あらゆる世代の方々が交流できる機会と場を設定し、団塊世代の地域づくりへの参画や住民主体のコミュニティの構築を図ってまいります。

また人材養成に関しては、「墨田区相互交流事業」を国内交流事業として、オーストラリア・シンガルトンへの「中高生海外派遣事業」を国際交流事業として、継続して取り組んでまいります。また、平成27年度は、シンガルトンとの友好都市締結から10年目を迎え、9月末にシンガルトンからの訪問団をお迎えし、町民の皆様とともに交流を深めてまいりたいと考えております。

長年の懸案である図書館については、新たな図書館建設に向けての「新図書館建設基本構想」の策定に向けて、さらに調査検討を進めてまいります。

スポーツの振興については、体育施設の管理及びスポーツ振興事業の一部を町体育協会へ委託をし、町民の健康づくりや生涯スポーツ活動を積極的に推進してまいります。

文化の振興については、引き続き、文化庁の補助事業である「文化遺産を活かした地域活性化事業」に取り組む、

地域の価値ある伝統文化の継承とそれに親しむ機会を設けてまいります。

【3】協働と共生を基本とした

まちづくり

将 来にわたり町民がいきいきと暮らししていくためには、人と人と自然という関係の中で、お互いを理解し、「共に生きる」という関係性を構築していかなければなりません。

また、人口減少、少子高齢社会が今後も進展することが予想される中、今まで以上に、町民、企業、まちづくり団体などが地域づくりの多様な担い手として行政とともに行動し、協働の関係を構築していく必要があります。地域のつながりを強固なものとし、さらに新たなつながりが創り出されるよう、地域のコミュニティ力を高めるためのきめ細やかな施策を展開してまいります。

①暮らしを支える

安全・安心からのアプローチ

暮らしにおける安全・安心を確保するために、社会情勢の変化に的確に対応しながら、地域の連携や支えあいを基本とし、誰もが安全・安心を実感できる地域社会の実現を目指してまいります。

交通事故や犯罪の発生を抑制するため、関係機関及び警察と緊密な連携を図るとともに、地域の支え合い活動として、地域住民による子どもたちの見

守り隊、青色回転灯装備車による自主防犯パトロールなど、地域に密着した活動を支援してまいります。

消費者対策として、全国的に多発している特殊詐欺、悪質商法などによる被害を未然に防止するため、関係機関と連携して情報提供、注意喚起等の啓発を行うとともに、相談窓口の強化に努めてまいります。

②再生可能エネルギーの

利活用など環境配慮からのアプローチ
省エネ対策と自治会等の維持管理費の負担軽減を目的に、自治会等が管理する防犯灯約2,000灯を町が一括してLED灯に更新してまいります。

また、再生可能エネルギーの導入促進を目的に、新たな公共施設に太陽光発電システムを導入するほか、「木質バイオマス燃焼機器」や「太陽熱温水システム」に対する助成を継続してまいります。

従来から進めている、小・中学校の生徒や町民を対象とした環境学習についても、内容を充実させて環境に対する意識を高めライフスタイルの転換を促してまいります。

③観光を軸とした

交流人口拡大からのアプローチ

平成27年度、たかはた夏まつり「青竹ちようちんまつり」の開催が50回という節目を迎えることから、個人や団体そして町内企業など多くの方々が参

加し盛り上がるよう取り組んでまいります。さらに、平成26年度に開催され、一定の成果を上げた山形デスティネーションキャンペーンですが、平成27年度は、「ポストDC」として開催されることになっており、昨年構築された「オール高畠」体制を強化し、観光資源を十分に活用することはもちろん、成果のあった取り組みをさらに磨き上げ、県内外から多くの観光客を呼び込み、地域の活性化に結びつけてまいります。

また昨年デビューしました町公式キャラクターについても、その活動の充実を図り、さらなる交流人口の拡大と高畠町の発信に努めてまいります。

④コミュニティ再生と新たな

つながりの創生からのアプローチ

地域コミュニティを活性化させることは、地域の絆を強くし地域のことは地域自ら考え実践していく原動力につながります。平成27年度は、地域コミュニティの活性化が町の持続的な発展につながっていくという観点から、地域の活性化や課題解決を目的に取り組む事業に対し、財政支援、人的支援という形で積極的に支援してまいります。

特に、地域コミュニティを支える単位は家族であり、婚活事業として民間団体等が実施する結婚に関する出会いや交流の場、又は情報等を提供する取り組みに対し、支援してまいります。また、地方の暮らしに興味を持つ意

欲ある都市住民を当町の「地域おこし協力隊」として採用し、移住交流の促進、町公式キャラクターを活用しての観光やブランドの発信、地域活動への支援など様々な活動を通して、町を知り町に関わって頂くことで、将来的には当町への定住を促していきたいと考えております。

移住・交流については、当町に興味を持つ方が体験的に滞在・交流できるプログラムを準備するとともに、空き家を有効利用した移住・交流について検討してまいります。

【4】ゆるぎない自立に向けた

まちづくり

地 方の自立は時代の要請であり、地域のことは地域で考え、行動し、その結果は地域自らが背負わなければならないと、私は考えます。

そのためには、それを実行していくだけの地域力が必要であり、町を支える町民の健康はもちろん、社会資本の整備、行財政基盤の健全化など、これらを強化する施策を展開し、ゆるぎない自立に向けたまちづくりを進めてまいります。

①健康で豊かに安心して生活できる

環境づくりからのアプローチ

町民一人ひとりが自主的に健康づくりに取り組み、継続して実践することを目指し、町民と地域、行政が一体となった健康づくりを行うため、平成28

年度を初年度とする「げんき高畠21」第2次計画の策定に取り組んでまいります。

また、公立高畠病院を中心に実施しております健康事業については、各種がん検診、特定健康診査の受診率向上を図るとともに、健診後の健康相談や保健指導を強化し、医療費の抑制と健康管理の充実に努めてまいります。

公立高畠病院の経営健全化と病院を中心とした地域保健医療提供体制の充実については、内科医師の招聘に全力を挙げるとともに、持続可能な病院経営の実現と町民の皆様の健康を守るため、予防医療である健康事業の充実と診療体制の強化を図りながら、地域包括ケア体制の中核的施設として、町内診療所や福祉・介護施設と連携し、地域に密着した保健医療を提供してまいります。

②公共施設等の総合的管理からの

アプローチ

過去に建設又は設置された公共施設等が更新時期を迎えている今日、今後の公共施設等の維持管理や更新には相当の費用と期間を要することとなります。このため、平成27年度、町では、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行い、併せてトータルコストの削減や平準化を念頭に「公共施設等総合整備計画」の策定を行ってまいります。

橋梁、道路舗装、道路工作物の補修、公営住宅に係る修繕については、すで

に策定している長寿命化計画に則り、継続的に実施し、都市公園は長寿命化計画策定の調査・診断・計画の策定を経て、平成28年度から順次改修を行っています。

いずれにいたしましても、今後策定する「公共施設等総合管理計画」との整合性を図り、包括的に位置付けて長期的な視点に立ち公共施設等の管理を効率的かつ効果的に行ってまいります。

③生活基盤の充実からのアプローチ

平成27年度は、道路整備に係る総合的かつ長期的な計画である「高島町幹線道路整備計画」を策定するため、道路整備計画検討委員会を設置し検討を進めてまいります。

道路改良促進事業の継続事業については、早期完成に向けて取り組んでまいります。また、生活圏道路については、既存集落内の不便解消と中山間部の整備を目的に、新たに町道下宿筋線の道路改良と大石田橋の拡幅工事に着手いたします。

上下水道については、安全・安心な水を安定的に供給することを目的に、老朽管や遠方監視装置等の施設修繕事業と上和田地区の水道未普及地域解消事業を継続して実施し、老朽化が進む第1水源地の更新事業を新たに進めてまいります。

下水道については、管渠・施設の適正な維持管理に努めるとともに、町設

置型・合併浄化槽の整備を推進してまいります。

④災害に強いまちづくりからのアプローチ

災害に強いまちづくりには、何よりも地域住民との連携が重要であり、昨年度に引き続いて自主防災組織を全集落で設立されるよう推進する一方で、自主防災組織の活動支援として、講習会や避難・救助訓練を継続的に行ってまいります。また、消防団の活性化と機動力の向上を目的に、平成27年4月からの消防団組織再編に併せて、団員の装備品や自動車ポンプ等の更新を計画的に進めてまいります。

また、民間企業や福祉施設との災害時協力協定を拡大するとともに、現在整備中の「災害時ヘリポート」を平成27年度から運用してまいります。

災害時の情報収集については、災害対策本部の初動対応や避難指示等の判断に大きく影響することから、高島町防災計画の見直しを随時行うとともに、情報収集体制の構築と強化を図ります。また、有事の際の対応をシミュレーションする機会を設けることを目的に、土砂災害警戒区域等の住民を対象に学習会等を開催いたします。

地震災害に対しては、最小限の被害に食い止める対策が有効であり、木造住宅の耐震診断や耐震改修支援事業の周知を徹底するほか、高島町建築物耐震改修促進計画を改定し耐震化率の向

上に努めてまいります。

⑤安定した行財政基盤の確立からのアプローチ

「第5次高島町総合計画」は後期基本計画の2年目を迎え、順調に推移しておりますが、今般の地方創生の「まち・ひと・しごと創生法」により「人口ビジョン」・「地方版総合戦略」の策定が要請されており、総合計画との整合を図りながら、当町の実態、目指す町の将来像に合わせた「高島町総合戦略」を策定してまいります。

個人に割り当てた番号を用いて行政機関等にある個人情報をも同一人の情報として確認できるようにする番号制度

の導入については、円滑な運用に向けて準備を行ってまいります。

また、人口減少による人口構造の変化等で、当町も社会保障費関係経費が伸び続けており財政の硬直化が増してきています。このような中、「5カ年経営計画」に基づき、自主財源を確保するため、町税収納率の向上対策を継続するとともに、土地・家屋の一斉調査を年次計画に基づき進めるなど、課税客体の適正な把握に努めます。また、地価変動を宅地の評価に的確に反映させるため、平成30年の評価替え時に全面的に路線価評価方式とするための準備を行います。

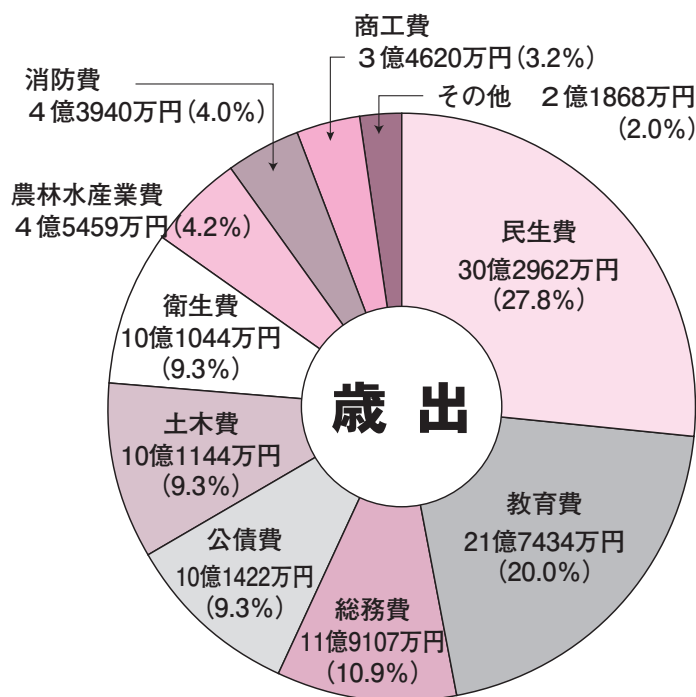
結びにあたって

高 島町にとって節目の年となる平成27年度にあたり、「人が輝き誇れるまち」のさらなる創造をめざして、引き続き確固たる信念を持って町政運営に誠心誠意全力を挙げてまいりる所存であります。

諸政策の実施にあたっては、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。平成27年度の施政方針といたします。

円 昨年度比 12億4千万円の減額

歳出 町民一人当たりに使われるお金 443,476円



町の人口 24,556 人(平成27年 3月 1日現在の住基登録者)

歳出の性質別分類 (一般会計)

区 分		金 額	構成比	
義務的経費	人件費	18 億 2628 万円	16.7 %	40.0 %
	扶助費	15 億 1973 万円	14.0 %	
	公債費	10 億 1422 万円	9.3 %	
投資的経費	普通建設事業費	15 億 6351 万円	14.4 %	14.4 %
	災害復旧事業費	22 万円	0.0 %	
その他	物件費	14 億 3093 万円	13.1 %	45.6 %
	維持補修費	2 億 6133 万円	2.4 %	
	補助費など	14 億 1206 万円	13.0 %	
	積立金	411 万円	0.0 %	
	投資及び出資金	1 億 1898 万円	1.1 %	
	貸付金	2 億 225 万円	1.9 %	
	繰出金	15 億 2138 万円	14.0 %	
	予備費	1500 万円	0.1 %	

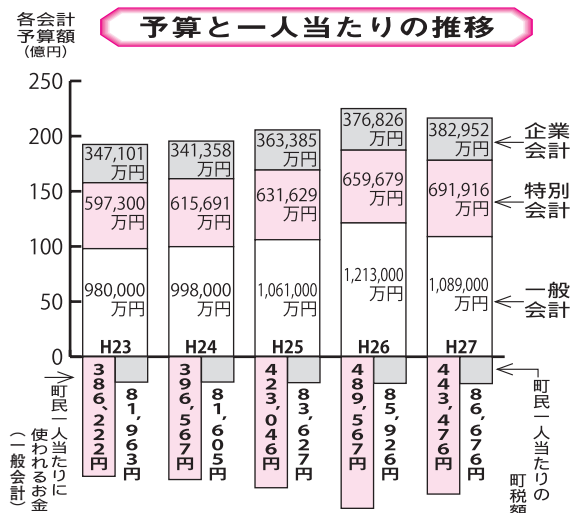
一般会計の主な事業

統合中学校関連整備事業	10億332万円
道路新設改良事業	1 億3,600万円
御入水団地B棟改修事業	4,820万円
体育センター再生可能エネルギー設置事業	4,240万円
屋代児童館駐車場整備事業	3,436万円
役場車庫建設および駐車場整備事業	3,000万円
屋代小学校移転実施設計業務	2,500万円
住宅建設支援事業等補助事業	2,120万円

国勢調査	903 万円
臨時福祉給付金事業	3,000 万円
高齢者いきいき活動支援事業	2,191 万円
福祉医療費	1 億 9,096 万円
子育て世帯臨時特例給付金事業	960 万円
放課後児童クラブ推進事業	2,501 万円
各種健診等住民保健事業	4,847 万円
母子保健事業 (乳幼児・妊婦健診事業等)	2,590 万円
環境基本計画推進事業 (防犯灯 LED 化等)	629 万円
ごみゼロモデル事業 (生ごみ資源化等)	826 万円
緊急雇用創出事業	1,066 万円
農地維持・資源向上支払交付金事業	1 億 413 万円
森林病虫害防除対策事業	220 万円
デマンド交通運行事業	840 万円
げんきな高島イベント開催事業	280 万円
中学校閉校式典事業	200 万円
私立幼稚園就園奨励費	1,830 万円
統合中学校備品購入事業	1 億 959 万円
人材養成事業 (中高生海外派遣、国内研修派遣)	310 万円
文化遺産発信事業	210 万円

注) 万円未満～四捨五入

予算と一人当たりの推移



平成27年度 予算

一般会計予算額 108億9千万

平成27年度高島町一般会計予算は、108億9千万円で、対前年度比で12億4千万円、10.2%の減額としました。

歳入のうち、町税、地方交付税および臨時財政対策債等の一般財源は66億7,042万円で、前年度比マイナス916万円、マイナス0.1%を見込みました。町税は、町民税などの増額を見込み、地方交付税は、国の地方財政計画によりマイナス3,000万円を見込みました。

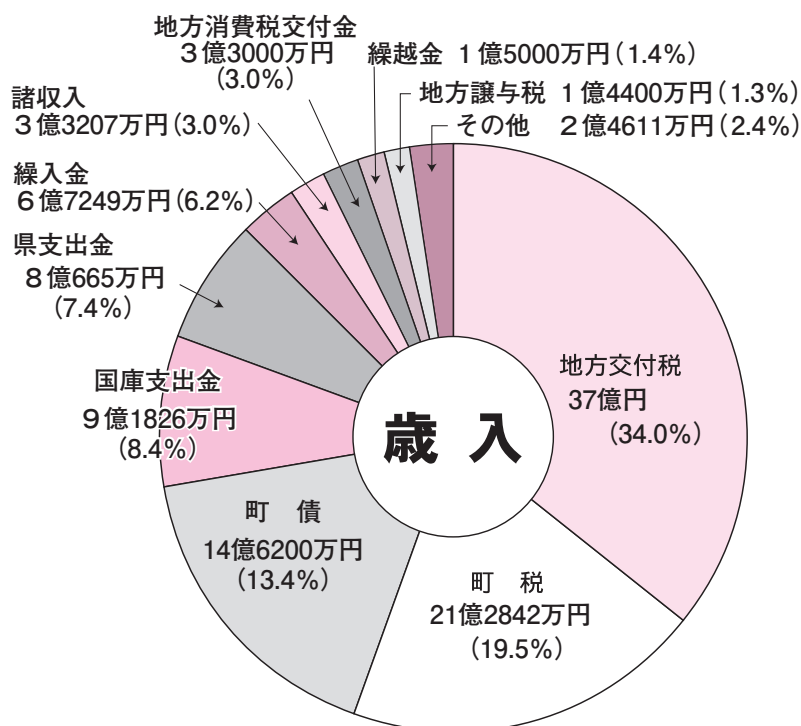
主な事業としては、統合中学校整備事業、町道竹森中里線整備事業、障がい者総合支援事業、児童福祉施設整備事業などを予算化し、町民の福祉および生活環境の向上に努める予算としました。

一般会計と特別会計、企業会計の予算総額は216億3,868万円で、一般会計や水道事業会計の減額と国民健康保険特別会計の増額などにより、前年度より8億5,637万円、3.8%の減額としました。

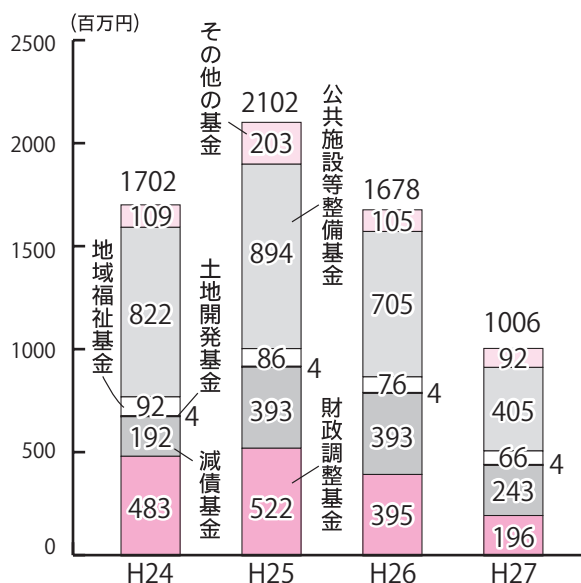
歳入

町民一人当たりの町税額

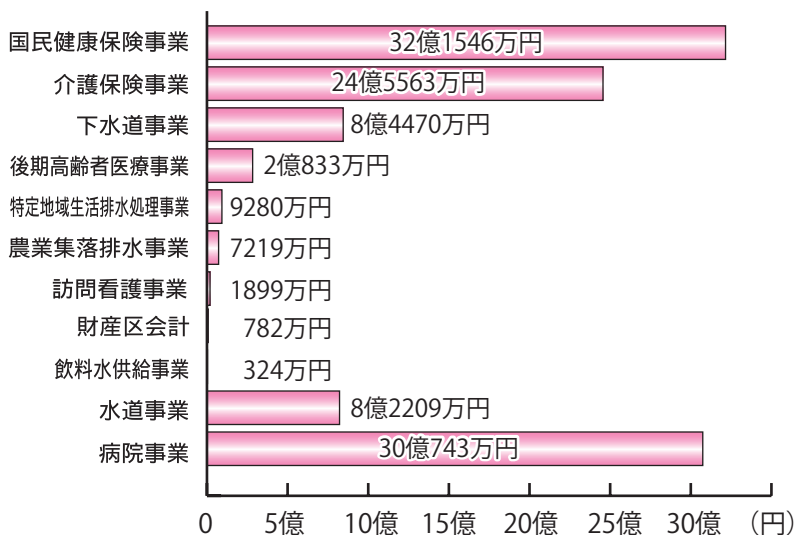
86,676円



一般会計の基金(貯金)の状況 (年度末残高)



特別会計・企業会計予算





高島中学校章

待望の校歌が完成します！

50年、100年と歌い継がれていく、新しい時代にふさわしい校歌がいよいよ完成します。

高島町立高島中学校校歌

作詞 たきのえいじ
作曲 若草 恵

一、こころざし

胸に刻めば その先を
流れてやまぬ屋代川
今日の日をありがとう

二度とない一日

清い心を育む仲間

まほろばの里よ 高島中学校

二、雪が溶け

山に生命が 芽吹く頃

窓辺で春が笑ってる

学び舎を渡る風

はるかなる縄文

熱い心を育む仲間

悠久の里よ 高島中学校

三、一歩ずつ

歩み止めずに 歩いたら

未来が一步近くなる

巡りゆく季節達

咲き誇る花達

強い心を育む仲間

うるわしの里よ 高島中学校

高島の自然と歴史が盛り込まれた校歌には、一日一日を大切に、感謝の心や仲間を大切にする心を育む学校生活が表現されています。歌詞にある「清い心、熱い心、強い心」は、高島らしい学校づくりにつながる生徒の姿でもあります。

校歌の作成は、たきのえいじ氏、若草恵氏に依頼しました。校歌のイメージを確かかなものにするため、作成者には4度来町していただき、高島の四季折々の風景を肌で感じていただきました。また、子どもたちの交流を深めるための機会も設けてきました。これまで、校歌に込める思いや願い、盛り込みたい言葉などについて話し合いを重ねてきましたが、2月に歌詞と楽曲の提案を受け、教育委員会の了承も得て決定しました。3月中に録音作業をし、音源と楽譜が完成しました。

▶作詞者／たきのえいじ氏（日本作詞家協会理事 愛媛県出身）

歌謡曲、子供番組、NHKみんなの歌、出身地愛媛のイメージソングなどの作詞作曲を手がける。歌謡曲やポップスで数々のヒット賞を受賞。エッセイ執筆や音楽カレッジの講師など幅広く活躍中。

▶作曲者／若草 恵氏（日本作曲家協会理事 真室川町出身）

渡辺貞夫氏の下でジャズ理論を学ぶ傍らCM音楽の作曲を始める。歌謡曲、ポップスの編曲、映画、テレビドラマ、舞台などの音楽を手がける。日本レコード大賞の作曲賞、編曲賞を多数受賞。

歌手のかとうれい子さんに校歌を歌っていただきました。

のびやかな歌声で子どもたちの命の輝きと高島の美しい四季を表現し、素晴らしい歌唱になりました。新年度になりましたら、かとうれい子さんの歌声で校歌を披露する予定です。



平成28年4月、全校生徒の歌声とともに高島中学校が開校します
高島中学校開校準備通信

まほろばの里[®]芸能祭

町の文化遺産を次世代に継承しようと「まほろばの里[®]芸能祭」が3月13日(金)に町文化ホールまほらで行われました。当日は、安久津八幡神社倭舞・田植舞・延年の舞のほか、おわら風の盆(富山県民謡越中八尾おわら保存会)の演舞や、歌舞伎俳優の中村勘九郎さん、七之助さん兄弟による「橋弁慶」(素踊り)が披露されました。



芸談の様子



田植舞



おわら風の盆



おわら風の盆



倭舞



「橋弁慶」



延年の舞

第25回 ひろすけ童話 感想文・感想画 全国コンクールの結果発表

第25回ひろすけ童話感想文・感想画全国コンクールの表彰式が3月7日(土)、ひろすけホールで行なわれました。今年は1,464点の応募が寄せられました。この中から入賞作品として感想文35編、感想画・幼児の部40点、児童の部88点選ばれ、特に優れた作品に特別優秀賞が、応募者数および入賞者の多い施設・小学校には団体賞が贈られました。

感想文

【個人の部】

《特別優秀賞》

山形県知事賞

鈴木真歩(尾花沢市立尾花沢小2年)

山形県教育委員会教育長賞

山野未妙妃(東京都杉並区立高井戸小5年)

高島町長賞

大瀧梨子(東京都杉並区立高井戸小5年)

高島町教育委員会教育長賞

阿部穂波(山形市立第一小3年)

(財)浜田広介記念館理事長賞

佐々木美羽(東京都杉並区立高井戸小5年)

(社)日本児童文芸家協会賞

菅原史早妃(宮城県栗原市立栗駒小6年)

(財)浜田広介記念館長賞〈連続入賞〉

菅原史早妃(宮城県栗原市立栗駒小6年)

【団体の部】

《ひろすけ童話賞委員会委員長賞》

東京都杉並区立高井戸小学校

感想画

【個人の部】

《特別優秀賞》

山形県知事賞

南川千佳(群馬県館林市立第一小3年)

山形県教育委員会教育長賞

齊藤綾乃(宮城県美里町立不動堂小5年)

高島町長賞

小野寺理央(山形市諏訪の杜保育園4歳)

上戸桜華(鹿児島県出水市立出水小1年)

高島町教育委員会教育長賞

鈴木真子(高島町あいく幼児園5歳)

只埜 燕(宮城県大崎市立松山小2年)

(財)浜田広介記念館理事長賞

我妻一花(高島町あいく幼児園3歳)

只埜 空(宮城県大崎市立松山小4年)

(社)日本児童文芸家協会賞

坂下詩織(群馬県館林市立第一小2年)

上戸桃華(鹿児島県出水市立出水小6年)

【団体の部】

《ひろすけ童話賞委員会委員長賞》

学校法人諏訪学園認定こども園諏訪の杜保育園

群馬県せんだ児童画教室



小さな親切にありがとう

2月28日(土)、平成26年高島「小さな親切」実行章の授与式が行われました。

【実行章受賞者 個人】

直江彩花（高島小6年）、佐藤愛莉（高島小2年）、阿部百々花（二井宿小4年）、奈良萌々香（二井宿小4年）、小池寿（一般）、濱田幸助（一般）

【実行章受賞者 団体】

町立高島小学校2年3組、町立屋代小学校4年生、町立屋代小学校ボランティア委員会、町立第一中学校総合芸術部、町立第三中学校生徒会、町立第三中学校生徒会執行部



真剣勝負

2月29日(日)、第29回まほろば尚武杯争奪少年剣道大会が、町営体育館を会場に開催されました。

大会には県内外から54団体、約400人が参加し、日頃の稽古の成果を発揮しました。

【結果】

- 優勝 鈴川剣友スポーツ少年団(山形市)
- 2位 岩沼少年剣道練成会(宮城県岩沼市)
- 3位 養勇館青空剣道教室(山形市)
- 鎌田剣道スポーツ少年団(福島県福島市)



新たに4商品が加わりました

2月17日(火)に開催された、たかはたブランド審査会において、(株)セゾンファクトリーの「謹製ジャムゆきかぶりふじ林檎」と、(株)ファインの「米沢牛コンビーフ」「ポークジャーキー」、(株)りんご苑の「高島グルメ駅弁」の4商品が新規に認証され、2月24日(火)、たかはたブランド認証証書交付式が執り行われました。

参加なくして未来なし 楽しさなくして参加なし

二井宿わくわくプロジェクト主催の講演とワークショップが3月7日(土)、二井宿地区公民館で開催され約30人が参加しました。

講師には東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科講師で(株)studio-Lの出野紀子氏を向かえ、「コミュニティデザインとは」と題し地域づくりに関する講演が行われました。



まちの話題 あれこれ

それぞれの思い出を胸に

3月16日(月)、町内の各中学校で卒業証書授与式が行われ、264人が母校を巣立ちました。

また18日(火)には、町内の各小学校で卒業証書授与式が行われ、236人が学び舎を後にしました。

恩師や保護者、在校生に祝福され、未来への希望と思い出を胸に笑顔と涙で新たな一歩を踏み出しました。



第三中学校



二井宿小学校



亀岡小学校



第四中学校

おめでとうございます



東北農政局主催の平成26年度「東北地域食育活動コンクール」東北地域に根ざした食育活動分野で、屋代村塾（富樫裕一代表）が食育活動表彰審査部長賞を受賞しました。

笑顔があふれる



3月1日(日)、「第25回世代交流歌謡フェスティバルねほだれ大会」が、町文化ホールまほろで行われました。今年も会場内にたくさん笑顔があふれました。

高畠産啓翁桜が彩る



3月7日(土)から15日(日)まで、山形おきたま農業協同組合高畠花木部会の協力を得て、3m級の40本の啓翁桜が羽田空港国際線ターミナルビル「江戸舞台」を彩りました。

災害時の協力に関する協定締結

3月16日(月)、町は「災害時における遺体の収容・搬送・安置等の協力に関する協定」を、(有)タケショウ(写真㊤)および全日本冠婚葬祭互助協会(写真㊦)と締結しました。また、町危険物安全協会(写真㊧)と「災害時における応急対策用燃料供給等の応援に関する協定」を締結しました。



年間賞の発表

思いあふれる文芸の数々

平成26年度の広報たかはた文芸欄に掲載された作品は俳句148点、短歌132点、川柳142点、詩20点の合計442点でした。その中から最高賞と佳作を選者の方に選定していただきます。表彰式は6月7日(日)に開催する「投稿者と選者のつどい」の中で行います。

俳句

荒井俊二・選

最高賞

マネキンの早やニューモード日脚伸ぶ

上和田 鏡 たか子(5月)

《選者のことば》

街頭觸目。気忙しい日短か、大雪の暮しからの開放感が快い。リズムミカルな表現がすばらしい。

佳作

掲載順

雪解けの流れに踊る猫柳

旭町 川村祐一(7月)

早春賦。屋代川の川畔であろ

うか、水嵩の増した川岸の猫

柳。「踊る」が心象をも表わし

て見事な描写。

忙しきことも生甲斐蟻の道

高 畠 大塚喜久能(7月)

活動的な作者にふさわしい

作。自然界のひたすらな蟻の営

みに、己が生きざまを重ねた詠

み方の重み。自己肯定の共感。

夏菊や遺影の夫は笑み見せて

福 沢 山中よし(9月)

「夏菊」がよい。見守って

くれる遺影の夫のやさしい笑

顔。前向きを自身に云い聞か

せながら、句に楽しめる作

者。

乳母車双子乗せゆく小春かな

一本柳 中手保子(2月)

技巧を見せない自然な叙法

に敬意。何と天恵のまばゆい

情景であろうか。

反面また、

「別れには別れの言葉飛花落

花」(7月)の作者でもある。

老の身にやさし初湯のうれしさよ

相 森 山口泰子(2月)

高齢・九十路の作者。新春

を迎えられた喜びが、初湯に

浸る一句に溢れて心和む作。

短歌

黒田 敦・選

最高賞

富岡の世界遺産の喜びに

野麦峠の悲哀偲ばる

旭町 川村祐一(9月)

《選者のことば》

富岡製糸工場跡地世界遺産に

指定を受けた喜びの裏には長野

県の歴史があり、女工哀史があ

ります。当時日本は絹糸の貿易

が盛んで外貨を稼いだ。若い娘

さん達は各地から集まり、仕事

は重労働でした。映画には「野

麦峠」があります。喜の裏には

深い悲しみがある、そこを表現

された。

佳作

掲載順

鈴生りの紅きさくらんぼに朝日さし

園のおちこち声ぞ聞こゆる

三条目 和田彰造(7月)

枝から垂れさがる真赤なさく

らんぼ園に朝の光が満ちてる中

での風景、子供の声であろうか

喚声が聞える、結句が良い。

昨夜来てチチロチチロと秋の虫

こよいは啼かずいづこゆきしか

糠野目 中野 博(11月)

叙情歌で、昨夜啼いていたが

今夜は啼かない、どうしたのだ
ろうかなあと心配もし静かに秋
は過ぎて行き寂しさが募りま
す。

寝返りに挑む曾孫は四ヶ月

成功なれば我に褒めてと

福 沢 山村和子(11月)

曾孫の姿を独自の視線で捉え

た。可愛いと直接言わなくとも

幼児の可愛さが十分表現されて

いる。可愛いしぐさが浮ぶ。

南海の孤島に散りし日本兵

月の光で古里探す

相 森 後藤ちよゑ(2月)

戦後七十年大東亜戦争で多く

の兵士が亡くなり、御霊は月の

光で古里を思っているのだろう

か。悲しく胸にせまります。心

に思う人もいただろうか。

葉は落ちて実をのこすのみ柿の木に

小鳥ははしやぎ啼くはうれしき

高 畠 後藤瑩子(2月)

風景画にみられるような情景、

柿の木に実を食べ散らかす名も

わからぬ鳥の鳴き声が燥ぐと表

現した。

最高賞

信頼は心と心の結び合い

「結」 石岡 川井みよ

《選者のことば》

信頼とは信じて頼りまかせるとあります。したがって心と心の結び合いが大切です。長い間すばらしい川柳に投句ありがとうございます。

佳作

敵將の命救つて友好国

「命」 高安 禅 月

大和魂の愛情の発露。命救つて素晴らしい友好国になったのです。

豊かさの心が生み出すあの笑顔

「豊」 金原 菅野信一

物心の豊かな笑顔は忘れる事が出来ないと思います。

天寿生き妻と五輪を東京で

「願」 上和田 大浦秀一

今から神様に「妻と五輪を東京で」と願いを受付けておくと叫ぶかも。

豊かさが勿体ないを忘れさせ

「豊」 二井宿 御田俊坊

勿体ないとは有用なものが粗末にされたり又無駄にされたりしているが、惜しい感じのこととあります。貴重な言葉です。

趣味活かし心豊かに暖かく

「豊」 亀岡 大槻京子

心や体がのびのびして満ち足りて又趣味を持つと物忘れや気の病が軽くなるそうです。

最高賞

「春だよ」

一本柳 正田清子(6月)

春だよ

ぼかばかのおひさま

路のとうが芽を出す

春のにおい

春だよ

雪溶け水が輝く

福寿草の花が咲く

春に思う

陽気に誘われ

土を掘り起こす

きよとんと

蛙がとび出す

春のにおい

母のにおい

前向きに支えてくれた

いくつもの春

詩

《選者のことば》

冒頭「春だよ」に始まり、結句「いくつもの春」まで、6回も「春」が出てくる。さらに春の風物として、「ぼかばかのおひさま」「路のとう」「雪溶け水」「福寿草」「土」「蛙」「春のにおい」が登場し、「春」満載である。難解な言葉はひとつもない。ごく当たり前の素朴な言葉を使って、「春」を具体的に、五感でしっかりと捉えている。しかも「春だよ」「春のにおい」を繰り返して「春」を迎えてうきうきしているさまや、「春のにおい」に「母のにおい」を連想しているさまなど、読む人にその感動がリズムカルに、ストリートに伝わってくる。さらに、結句の「前向きに支えてくれたいくつもの春」がいい。「春」

は人々を、特に雪国の人々を「前向きに」してくれるものだから。

佳作

「星空と私」

二井宿 濱田さだ子(12月)

《選者のことば》

「山形の空は空気が澄んでとても美しいので」という添え書きあり。星空を眺めているとみんなこんな想念にかられる。

「美加ちゃん」

上和田 大浦秀一(8月)

《選者のことば》

「見知らぬ女の子」は天使だったかも。作者の淋し気な心を見抜き、唄で明るくしてくれたとは、いやはや驚きく。

投稿者と

選者のついで

「投稿者と選者のついで」を開催します。年間賞を受賞された方はご出席ください。また、「これから投稿してみたい」、「つどいに興味がある」方など、お気軽にお問い合わせください。

○日時／平成27年6月7日(日)

午前10時から

○場所／町総合交流プラザ

◆問合せ先／町企画財政課

「文芸欄」

☎(52)4476